

教育だより 第36号 October 2022

目次

ニュース・イベント	(全体) 教育協力ウィーク実施報告	
	➢ 教育協力ウィークの実施 全体概要 (9/7~9/9)	2
	➢ 全体スケジュール表	3
	➢ SDGs 達成に向け、教育協力プラットフォームに期待すること	
	➢ 基礎教育①日本の特別支援教育の経験から途上国のインクルーシブ教育協力を活かせる取組	6
	➢ 高等教育①留学生受入れ事業が日本国内外に生み出したインパクトと今後期待される役割	7
	➢ 基礎教育②次世代人材育成を見据えた理数科教育協力の在り方	
	➢ 高等教育②高等教育×人間の安全保障～高等教育はどのようにして人間の安全保障に貢献できるか？～	8
	➢ サイドイベント①国際教育協力の現場を知る	
	➢ 基礎教育③国際教育協力の日本国内の教育現場への還元	9
	➢ 高等教育③持続可能な産学連携を目指して～産業界と大学の新たなパートナーシップ～	10
	➢ 基礎教育④紛争予防・平和構築に繋がる教育の在り方	
	➢ 高等教育④日本・アフリカ拠点大学ネットワーク構想の実現に向けて	11
	➢ サイドイベント②教育協力キャリアセミナー：未来の教室を作る一員に	12
	➢ サイドイベント③ICTを活用した学びの改善～日本及び開発途上国の現場から見る現状・課題と展望	
	➢ 基礎教育⑤非認知能力に関する日本の教育実践・経験から見る教育協力の可能性	13
➢ 高等教育⑤高等教育分野のプロジェクト間連携の効果と課題-水平的な大学間連携を通じた学び合いのデザイン-	14	
➢ 基礎教育⑥ジェンダー視点を盛り込んだ教育協力について語り合おう		
➢ 職業訓練①産業界のニーズを踏まえた TVET 支援の今後の展望	15	
国際動向・国際会議	(全体) グローバル エデュケーション モニタリング レポート 2021/22	15
国際動向・国際会議	(全体) TICAD8 サイドイベント報告	16
プロジェクト紹介 高等教育	(エジプト) エジプトへの高専システム導入に向けた本邦招へいを実施	17
セクター横断・他機関と連携事例	(全体) 「第 24 回教育セクターにおける JICA・コンサルタント勉強会」開催報告	18
KMN 活動報告	(全体) 【マルチメディア教材のご紹介】日本の科学技術・産業発展と工学教育	19
広報ナレッジマネジメント好事例	(全体) パキスタン案件動画紹介	19

- 「第2回教育協カウィーク」を9月7日~9日に開催しました。本イベントは、JICA 教育グローバル・アジェンダのプラットフォーム活動の一環として、教育セクターの実務者（大学関係者を含む）間の情報共有・意見交換・ネットワーク形成を目的とするものであり、全体会合・テーマ別分科会・サイドイベントの合計 17 セッションを実施しました。
- 本イベントには、延べ登録者数 3,512 名と非常に多くの実務者等に参加いただきました。参加者の所属も多様であり、JICA 各部署、開発コンサルタント、専門家、大学、NGO/NPO、民間企業、省庁・政府機関、国際機関等から参加（サイドイベントのオープンセッションには大学生・大学院生等も参加）いただきました。
- 各セッションでは、所属組織・事業を超えた自由闊達な情報交換・意見交換がなされ、教育協力のインパクト最大化に向けた方策の検討や、将来の連携に向けた基盤づくりの場となりました。参加者からは、「これほど多くの実務者、研究者が一堂に会し、専門的な議論ができたことは前例がなく非常に意義深い」「いずれのセッションも最前線で活躍している人々の示唆に富んだ発表やディスカッションにより、自身の業務へのヒント、モチベーションアップにつながった」など総じて高評価でした。また、本イベント運営事務局を JICA・コンサルタント・NGO 等の若手有志を中心に構成することを通じ、関係組織の若手人材間の人脈形成にも繋がったと思います。
- オープニング・セッションでは「SDGs 達成に向けて、教育協力プラットフォームに期待すること」をテーマに議論。JICA からは本プラットフォームは、①知見共有・共創、②発信・広報、③連携事業の実施、④人材育成・発掘・活躍の場提供の4機能を持ち、KMN 活動を基盤に実施することを提案し（以下、資料のとおり）、賛同を得られました。登壇者からは国際的教育協力プラットフォーム構築、教科書・教材など成果品を中心とした「国際公共財」の発信、SDGs 実現に向け民間企業の持続的活動が可能となるシステム構築への貢献等の表明がありました。
- 今後、本イベントの結果を踏まえて、教育グローバル・アジェンダや各クラスター事業戦略の策定・実施に向けて、教育 KMN を中心に外部実務者を巻き込み、プラットフォーム枠組みの具体化と実際の知見共有・共創の活動を進める予定です。引き続き、皆さんで「教育協力プラットフォーム」をもりあげていきましょう。



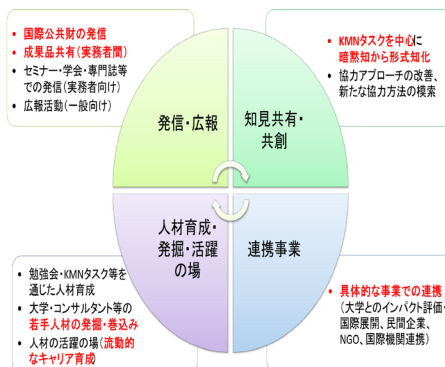
教育協力プラットフォームのあり方 4つの機能

教育協力プラットフォーム構想

目的
2030年SDGs4達成に向け、途上国へのより良い教育支援を実現するため、課題解決のためのソリューションを自由に議論し、パートナーシップを深め、共創と革新を生み出す「場」として、実務者間のネットワークを構築する。

枠組み

- アクター：コンサルタント/専門家、大学/研究機関、NGO/NPO、民間企業、国際機関、省庁・政府機関、JICA等
- 期間：2030年を想定
- 事務局機能：既存の枠組みとして、JICAの教育KMN(Knowledge Management Network)タスクを中心に実施。教育協カウィーク等のイベントはJICA/コンサルタント幹事グループ中心に対応。今後、活動範囲に応じて、段階的に検討。





9月7日～9日の3日間、開催しました。ご登壇いただきました皆様、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました！

<タイムテーブル・登壇者（敬称略）>

9月7日(水)	
12:00-13:20	<p>「SDGs 達成に向け、教育協力プラットフォームに期待すること」</p> <p>開会挨拶：佐久間 潤（JICA 人間開発部長）</p> <p>基調講演：黒田 一雄（早稲田大学 教授）</p> <p>パネルディスカッション：</p> <p>ファシリテーター：黒田 一雄（早稲田大学 教授）</p> <p>パネリスト(50音順)：</p> <p>上田 大輔（JICA 人間開発部 高等教育グループ長）</p> <p>奥川 浩士（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング コンサルティング事業部 副事業部長）</p> <p>小荒井 理恵（教育協力 NGO ネットワーク 事務局次長）</p> <p>小林 美弥子（JICA 人間開発部 基礎教育グループ長）</p> <p>芹澤 克明（学校図書株式会社 代表取締役社長）</p>
13:30-15:10	<p>基礎教育①「日本の特別支援教育の経験から途上国のインクルーシブ教育協力を活かせる取組」</p> <p>諸橋 郁哉（JICA 東京 学校教育アドバイザー）</p> <p>鈴木 サヤカ（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング 教育グループリーダー代理）</p> <p>パネリスト：久野 研二（JICA 国際協力専門員）</p> <p>モデレーター：川口 純（筑波大学 准教授）</p> <hr/> <p>高等教育①「留学生受け入れ事業が日本国内外に生み出したインパクトと今後期待される役割」</p> <p>伊藤 民平（JICA 国内事業部 開発大学院連携推進室 副室長）</p> <p>太田 浩（一橋大学 教授）</p> <p>萱島 信子（JICA 緒方貞子平和開発研究所 シニア・リサーチ・アドバイザ）</p> <p>モデレーター：梅宮 直樹（上智大学 教授）</p>
15:30-17:10	<p>基礎教育②「次世代人材育成を見据えた理数科教育協力の在り方」</p> <p>大山 健志（国立研究開発法人科学技術振興機構 理数学習推進部）</p> <p>野呂 浩良（株式会社 DIVE INTO CODE 代表取締役）</p> <p>山脇 智志（キャストリア株式会社 代表取締役）</p> <hr/> <p>高等教育②「高等教育×人間の安全保障 ～高等教育はどのようにして人間の安全保障に貢献できるか？～」</p> <p>武藤 亜子（JICA 緒方研究所 上席研究員）</p> <p>高橋 敦（JICA 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ 2 専門家）</p> <p>青木 恒憲（長崎大学大学院 教授）</p> <p>モデレーター：加藤 一平（インテムコンサルティング株式会社 コンサルタント）</p>

17:30- 19:00	<p>サイドイベント①「国際教育協力の現場を知る」</p> <p>中山 恒平（アスカ・ワールド・コンサルタント株式会社／JICA ガーナみんなの学校：コミュニティ参加型学習改善支援プロジェクト 専門家）</p> <p>渡辺 大樹（NGO エクマツトラ 代表）</p> <p>モデレーター：太田 美穂（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング 主席コンサルタント）</p>
9月8日(木)	
13:30- 15:10	<p>基礎教育③「国際教育協力の日本国内の教育現場への還元」</p> <p>海老原 周子（JICA 国際協力推進員）</p> <p>村松 清玄（公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 地球市民事業課 国内事業担当）</p> <hr/> <p>高等教育③「持続可能な産学連携を目指して ～産業界と大学の新たなパートナーシップ～」</p> <p>辻本 温史（JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクトサブチーフアドバイザー）</p> <p>辻 修子（JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト専門家）</p> <p>齊藤 州紀（株式会社パデコ シニアコンサルタント）</p> <p>中野 恭子（有限会社ヒューマンリンク 取締役社長）</p> <p>丸 幸弘（株式会社リバネス 代表取締役）</p> <p>後藤 敏（早稲田大学 名誉教授）</p> <p>モデレーター：上田 大輔（JICA 人間開発部高等教育グループ長）</p>
15:30- 17:10	<p>基礎教育④「紛争予防・平和構築に繋がる教育の在り方」</p> <p>小松 太郎（上智大学 教授）</p> <p>山本 英里（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 事務局長兼アフガニスタン事務所長）</p> <p>塚原 治美（株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル プランニング事業部都市地域開発部 課長）</p> <hr/> <p>高等教育④「日本・アフリカ拠点大学ネットワーク構想の実現に向けて」</p> <p>渡邊 元治（JICA 人間開発部高等・技術教育チーム 教育シニアエキスパート）</p> <p>青木 翔平（JICA アフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AU ネットワークプロジェクトフェーズ 2 専門家）</p> <p>森尾 貴広（筑波大学 教授）</p> <p>武居 桂子（アフリカ開発銀行 人間開発部教育技術チーム Deputy Manager）</p> <p>渡邊 公一郎（九州大学 名誉教授/JICA 国際協力専門員）</p> <p>モデレーター：奥本 将勝（JICA 人間開発部高等・技術教育チーム 企画役）</p>
17:30- 19:00	<p>サイドイベント②「教育協力キャリアセミナー：未来の教室を作る一員に」</p> <p>岩崎 理恵（JICA 人間開発部基礎教育グループ 企画役）</p> <p>川口 純（筑波大学 准教授）</p> <p>幸村 真希（UNICEF 東京事務所 公的パートナーシップ専門官）</p> <p>高階 悠輔（特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による 海外協力の会 国内活動グループ職員）</p> <p>米田 勇太（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング 主任コンサルタント）</p> <p>モデレーター：小林 美弥子（JICA 人間開発部基礎教育 グループ長）</p>

9月9日(金)	
11:00-12:30	<p>サイドイベント③「ICTを活用した学びの改善～日本及び開発途上国の現場から見る現状・課題と展望」</p> <p>大沼 潤一（埼玉県教育局県立学校部 ICT 教育推進課 ICT 教育指導担当） 佐藤 幸司（株式会社国際開発センター） 三輪 開人（認定 NPO 法人 e-Education 代表理事／ JICA ルワンダ ICT を活用した初等理数科学びの改善プロジェクト専門家） モデレーター: 西方憲広(JICA 国際協力専門員)</p>
13:30-15:10	<p>基礎教育⑤「非認知能力に関する日本の教育実践・経験から見る教育協力の可能性」</p> <p>南部 和彦（文京学院大学 特任教授） 上野 亮一（特定非営利活動法人アジア科学教育経済発展機構 （アジアシード）／JICA マレーシア全人教育推進プロジェクト 専門家） 松永 晴子（特定非営利活動法人国境なき子どもたち シリア難民支援 現地事業総括） モデレーター: 恒吉 僚子（文京学院大学 副学長）</p>
	<p>高等教育⑤「高等教育分野のプロジェクト間連携の効果と課題 -水平的な大学間連携を通じた学び合いのデザイン-」</p> <p>濱田 勇（JICA マレーシア日本国際工科院強化プロジェクト チーフアドバイザー） 十田 麻衣（JICA アフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AU ネットワークプロジェクトフェーズ 2 専門家） 岡野 貴誠（JICA エジプト日本科学技術大学(E-JUST) プロジェクトフェーズ 3 チーフアドバイザー） モデレーター: 佐々木 慶子(JICA エジプト日本科学技術大学 (E-JUST)プロジェクトフェーズ 3 サブチーフアドバイザー)</p>
15:30-17:10	<p>基礎教育⑥「ジェンダー視点を盛り込んだ教育協力について語り合おう」</p> <p>水野 敬子（JICA 国際協力専門員） 岩淵 智広（JICA ガバナンス・平和構築部ジェンダー平等・貧困削減推進室 特別嘱託） 野々口 敦子（国際航業株式会社 シニアコンサルタント） モデレーター: 西村 幹子（国際基督教大学 教授）</p>
	<p>職業訓練①「TVET～産業界のニーズを踏まえた TVET 支援の今後の展望～」</p> <p>中原 伸一郎（JICA 国際協力専門員） 池田 悦子（株式会社アイ・シー・ネット 技能工育成のための職業訓練校能力強化プロジェクト総括） 種谷 謙一（セントパーツ株式会社 代表取締役）</p>
17:30-18:00	<p>各セッション振り返り 総括</p> <p>大橋 悠紀（株式会社パデコ教育開発部 プロジェクトコンサルタント） 加藤 一平（インテムコンサルティング株式会社 コンサルタント） 渡邊 志穂理(コーエイリサーチ&コンサルティング株式会社教育グループ コンサルタント) 杉山 竜一（株式会社パデコ 教育開発部長）</p> <p>閉会挨拶</p> <p>三宅 隆史（教育協力 NGO ネットワーク 事務局長） (閉会后、フリートークセッション、懇親会開催)</p>



【教育協カウィーク報告】SDGs 達成に向け、
教育協カプラットフォームに期待すること

上記テーマを掲げ約 200 名が参加し開催されました。冒頭、JICA 人間開発部の佐久間氏から、前年の初回からより充実したプログラムにおいて実務者による質の高い議論や更なるネットワーク化への期待が示されました。続いて早稲田大学の黒田氏から、プラットフォームの定義やこれまでの枠組みを振り返るとともに、国際教育協力に関係者が一同で今後取り組む際の、場としてのプラットフォームの在り方や日本の役割について示唆に富むご発表をいただきました。その後、開発コンサルタントの KRC 奥川氏、教育協力 NGO ネットワークの小荒井氏、学校図書館の芦澤氏から、これまでの各組織での取り組みを踏まえてプラットフォームの将来像への期待が示されました。そして、JICA 人間開発部小林氏・上田氏から、今後の教育支援やプラットフォーム構想の方向性が示され、それらを踏まえて関係者で意見交換が行われました。最後に、佐久間氏から改めて昨年より一層強固になったネットワークを活かし関係者間で更に「繋がりますよ」というメッセージで締めくくられました。

人間開発部 基礎教育第二チーム 課長 松崎 瑞樹

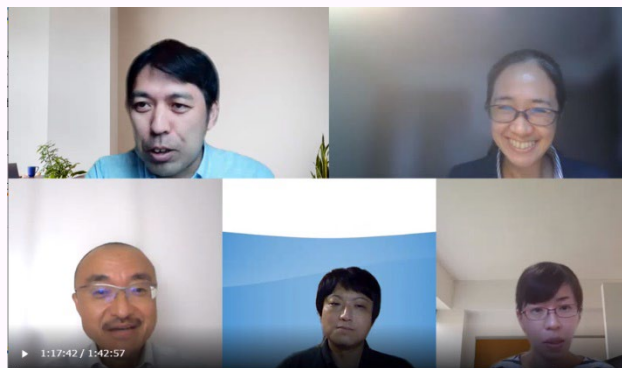


【教育協カウィーク報告】基礎教育①日本の特別支援教育の経験から
途上国のインクルーシブ教育協カに活かせる取組

今年度は「日本の特別支援教育の経験から途上国のインクルーシブ教育協カに活かせる取組」をテーマに掲げ、川口氏（筑波大学）、諸橋氏（JICA：埼玉教育委員会より出向中）、鈴木氏（KRC）、久野氏（JICA）を登壇者としてお招きしました。

本セッションでは、インクルーシブ教育に関する国際潮流を確認した後、日本の特別支援教育や途上国でのインクルーシブ教育推進の取組を紹介し、日本および途上国におけるインクルーシブ教育の推進で障壁となりうることや、「社会」や「社会の縮図としての学校」における多様性の考え方について議論しました。

議論を通じて、日本の教員（養成）の質の高さなど、日本が積み上げてきた特別支援教育の経験で途上国のインクルーシブ教育推進に生かせる点を確認し、また、各国のインクルーシブ教育の質の向上のため、各国同士で知見を共有し、互いに学び合いを続けていくことが重要であることを確認しました。



ディスカッションの様子

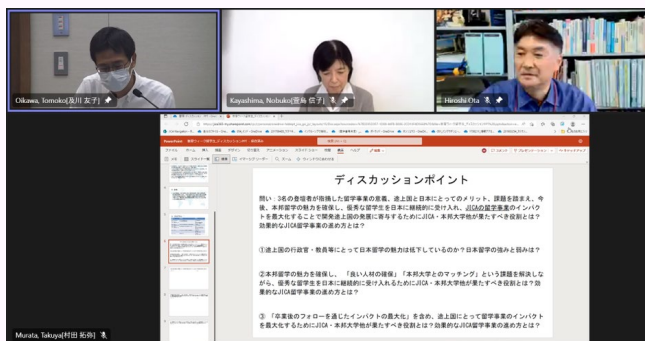
人間開発部 基礎教育第二チーム 樋口 耕平



【教育協カウィーク報告】 高等教育① 留学生受入事業が国内外に 生み出したインパクトと今後期待される役割

100名以上の教育協力関係者が参加した本セッションでは、継続的に優秀な学生を本邦大学で受け入れ、開発途上国の発展を後押しするうえで ODA が果たせる役割を議論すべく、伊藤氏（JICA 開発大学院連携推進室）、太田氏（一橋大学）、萱島氏（JICA 緒方貞子平和開発研究所）にご登壇いただきました。

セッションの後半は、上智大学の梅宮氏にモデレートいただき、日本への留学をいかに魅力的なものとしていか、留学のインパクトをいかに最大化するか、等に関して、登壇者をはじめ、留学生を送り出す海外の大学で勤務する専門家、本邦大学の関係者とともに議論しました。日本への留学に関しては、「指導教員との継続的な繋がり」が強みとして挙げられた一方で、「入試手続きの複雑さ」等が課題とされました。さらに、留学事業のインパクトの最大化のための留学生のフォローアップ制度の充実が、提言の一つとして挙げられました。



ディスカッションの様子

人間開発部 高等・技術教育チーム インターン 河東 春伽



【教育協カウィーク報告】 基礎教育② 次世代人材育成を見据えた理数科教育協力の在り方

アフリカではルワンダに続きケニアにおいてプログラミング教育が必修化されるなど、途上国においても STEM 教育を重視し、これからのイノベーションを担う科学技術人材の育成を推進する国が増えています。本セッションでは次世代人材育成という視点から、今後の理数科教育協力の在り方を議論しました。

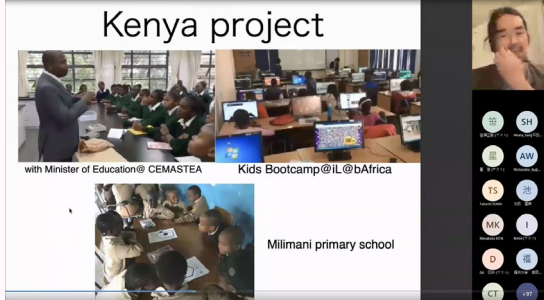
大山氏(JST)からは基礎学力が高い日本では画一的な理数教育からの転換が見られていること、山脇氏(キャストリア)からはケニアのプログラミング教育の事例をもとに知識からスキルの習得に重きを置いた取り組みがあること、野呂氏(DIVE INTO CODE)の発表からはセネガルの IT 人材と日々接する中で、初等段階での基礎基本の重要性を感じる事が共有されました。

議論の中心は理数科教育への関心をいかに喚起するかということでした。ロールモデルを示したり、実際に使われている応用の部分を見せたりすることなどを通じて関心を高め、その後の仕事につながるような出口を創出することが次世代人材育成という視点では重要ではないかという示唆を得ました。



日本の次世代人材育成事業についての発表
(JST 大山氏)

理数科教育協力への期待について
(DIVE INTO CODE 野呂氏)



ケニアで教育協力における取組み共有
(キャストリア 山脇氏)



質疑応答を中心とした全体協議の様子

人間開発部 基礎教育第一チーム 中島 啓二



【教育協カウィーク報告】 高等教育② 高等教育×人間の安全保障
～高等教育はどのようにして人間の安全保障に貢献できるか？～

本セッションでは最近の人間の安全保障の議論の紹介と高等教育が人間の安全保障に貢献した事例（東ティモール国立大学、長崎大学の例）共有をしました。

議論のポイントは以下のとおり

- 可視化された新たな脅威（新型コロナウイルス等の地球規模課題）の解決には、グローバルからコミュニティレベルの取り組み、学問領域を超えた幅広い活動が必要。高度人材はその活動を専門知で主導・連携させていくことが期待できる。
- 高等教育で「エンパワメント」された高度人材が、「保護」をされる側から「保護」を与える側に回り、脅威にさらされた人々に対して「保護」を与えるとともに社会の強靱化に貢献することで、人々の命、暮らし、尊厳を守るという正のサイクルを生み出すことができる。

高等教育支援に携わる実務者が人間の安全保障の視点を持つことは意識的に正のサイクルを生み出すことに繋がり、プロジェクトの意義、インパクトをより高めることができるという示唆が得られました。



人間開発部 高等・技術教育チーム 久松 彩音



教育協カウィークのサイドイベント第一弾となる本イベントでは、国際教育協力に関心がある方のキャリアや実務者の今後の活動のヒントになることを目指し、現場で活躍するアスカワールドコンサルタント株式会社の中山氏と NPO 法人エクマツラの渡辺氏にご登壇いただきました。

中山氏は、ガーナで「みんなの学校：コミュニティ参加型学習改善支援プロジェクト」（公教育）に JICA 専門家として従事されており、学校教育行政だけでなく、コミュニティと学校との協働を通じた初等レベルの子どもの学習成果の改善を目指す取り組みを紹介いただきました。渡辺氏は、バングラデシュでストリートチルドレンへの教育活動を実施し、青空教室から始まった社会リーダー育成学校（私教育）の展開について紹介していただきました。

両者共にコミュニティを巻き込む活動により自立的かつ持続可能な仕組みを作るというポイントを挙げ、教育は学習者の未来を創るというやり甲斐があること、常にアンテナを持ち続けること、自分の中に引き出しを沢山持つことなどが国際教育協力へのヒントとして示唆されました。

【本イベントは YouTube にて公開中！】[教育協カウィーク 2022 サイドイベント「国際教育協力の現場を知る」 - YouTube](#)

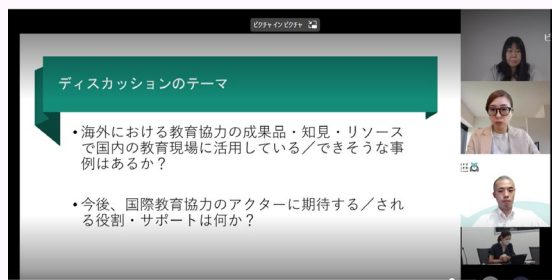


登壇者間でのディスカッションの様子

人間開発部 基礎教育第一チーム インターン 平沼 里穂子



本セッションでは、海外の教育協力の日本国内の外国につながる子どもの教育課題解決への貢献の可能性について考えました。冒頭、JICA 人間開発部岩瀬氏より、当グループの教育成果品（教材）の国内での活用にかかる取り組みを通じ、課題提起を頂きました。次に、JICA 東京の海老原氏より、外国につながる子どもの現状と課題やニーズについてお話しいただきました。その後、シャンティ国際ボランティア協会の村松氏より、国際 NGO の立場から多文化共生事業の事例紹介を頂きました。その後のオープンディスカッションでも活発な議論があり、①外国につながる子どもの教育課題の多様性・多面性、②人材も含めて幅広く知見・リソース・役割について検討する重要性、③各団体の内外における知見共有も含めた連携強化の重要性等の学びを得ました。今後も多文化共生という切り口で、途上国だけでなく日本国内の教育課題への貢献について考えていければと思います。



グループディスカッションの様子

人間開発部 基礎教育第一チーム 岩沢 久美子



本セッションでは、JICA の高等教育プロジェクトが直面する産学連携に係る課題に対して、発展途上国の大学、民間企業（特に本邦企業）、本邦大学の視点から、それぞれの産学連携の取り組みや目的、課題を共有し、産業界、大学双方の視点に立った新たな産学連携の在り方について議論を行いました。

今後への示唆・学び

- 教員/学生による企業への確実な対応の積み重ねによる信頼関係の構築
- 日本を冠した大学名や日本人教員/専門家の存在の活用した関係づくり
- 企業に就職した卒業生を介した研究連携
- 教育プログラムにおける大学・企業の相互補完的な連携
- 段階的な連携深化（教育面から始めて研究面に深化）
- 途上国特有の課題/素材を活用した課題 driven（⇔技術 Driven）な関係構築
- 大学内での起業の種発見・育成や政府・企業による育成資金メカニズム構築等を通じて、**大学と企業双方に裨益する「協働」関係を作ることが重要。**

本セッションでは、上記の重要な示唆があるなど、実りのあるセッションとなりました。



モデレーターと発表者の皆さま

人間開発部 高等・技術教育チーム 富田 倫史



紛争予防・平和構築に繋がる教育の在り方を模索すべく、上智大学の小松氏、シャンティ国際ボランティア会の山本氏、オリエンタルコンサルタンツグローバル社の塚原氏をお招きし、アフガニスタンでの紛争影響下の事例やコートジボワールでの紛争後の事例を共有いただきながら、次の3つの視点から意見交換を行いました。

1. **学習の継続性**をいかに実現するか：緊急下でのノンフォーマル教育の役割、どのように公教育に繋げていかか。
2. **包摂的・公平な教育提供**をいかに実現するか：何が「公平」なのかはコンテキストによって異なる。異なる集団同士（行政と住民、住民間）の信頼関係をいかに構築するか。
3. **質の高い教育**（平和教育、人権教育等平和構築に繋がる教育）の提供をいかに支援するか。

本セッションを契機に、この3視点について、国・地域等の焦点を絞って議論を深め、人道と開発のネクサス（人道支援機関と開発援助機関の役割）を検討していきたいと考えています。



ディスカッションの様子

人間開発部 基礎教育第二チーム 宇原 英美



約90名が参加した本セッションでは、エジプト日本科学技術大学（E-JUST）、ジョモ・ケニヤツタ農工大学（JKUAT）を中心に進める上記構想の実現に向けた方策を議論しました。

冒頭、JICA 奥本氏より、同構想の目的と概要の説明がなされましたのち、筑波大学森尾氏、アフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AU ネットワークプロジェクト（フェーズ2）の青木氏が既にアフリカで実践されているネットワークや共同研究の取組に関して事例とともに紹介しました。

上記二人とともにパネルディスカッションに参加したアフリカ開発銀行（AfDB）武居氏はネットワークにおけるAfDBとの連携のアイデアが提案しました。JICA 渡邊氏はTICAD8 サイドイベントの報告を行いました。意見交換を通じ、拠点大学のプレゼンスを高めつつ、アフリカ側も主体的にネットワークをつくり、研究教育能力向上・国際化を進めることで、アフリカ広域での持続的な高等教育強化を可能にすること、そのネットワークを日本が後押ししていく、という方向性が確認されました。



パネルディスカッション/質疑応答の様子

人間開発部 高等・技術教育チーム インターン 河東 春伽



ニュース・イベント

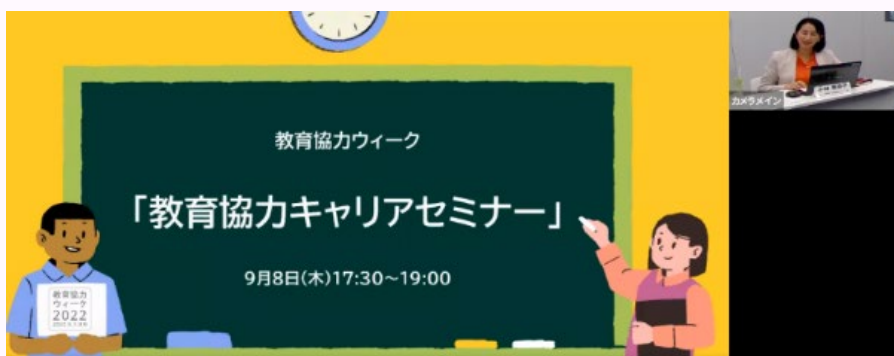
【教育協カウィーク報告】

サイドイベント②「教育協カキャリアセミナー：未来の教室を作る一員に」

教育協カ/国際協カの様々な現場でご活躍されている 5 名の方（川口氏：筑波大学、岩崎氏：JICA、高階氏：シャプラニール＝市民による海外協カの会、幸村氏：国際連合児童基金東京事務所、米田氏：コーエイリサーチ&コンサルティング）とともにモデレーターとして JICA 基礎教育 G の小林次長にご登壇いただきました。ご自身のキャリアを歩むようになったきっかけやキャリア選択の軸、各所属先だからこそ仕事の面白さ・強み、これまで乗り越えてきた困難、仕事をする上で大切にしていること等について、お話いただきました。そうしたお話から、セミナー参加者に対し、教育協カ/国際協カのキャリアパスには多くの魅力的な選択肢があるということが伝わり、今後のキャリアパスを検討する良いきっかけになりました。また、教育協カに携わる上での今後の学びとして、様々なセクター間での人と人の繋がりを大切に活動すること、当事者意識を持ちながら現場の声に耳を傾けることの重要性が示されました。

【本イベントは YouTube にて公開中！】

[教育協カウィーク 2022 サイドイベント「教育協カキャリアセミナー：未来の教室を作る一員に」 - YouTube](#)



オープニングの様子

人間開発部 基礎教育第二チーム インターン 小嶋 晟弘





「ICTを活用した学びの改善の可能性」というテーマのもと、大沼氏（埼玉県教育委員会）、佐藤氏（国際開発センター）、三輪氏（NPO 法人 e-Education）にご登壇いただき、国内外での ICT を活用した学習改善の事例や課題について、ご紹介いただきました。

パネルディスカッションでは、以下の 2 点について議論が行われました。

- ・ICT 活用により、授業は改善されるのか
- ・ICT 活用により、学びは改善されるのか

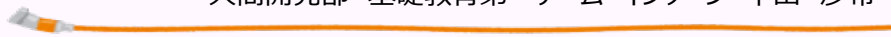
1 点目の論点に関しては、生徒の学習ログを効果的に生かす仕組みを作ることにより、授業改善が実現されることが指摘されました。また、ICT を活用した授業を成立させる要因として、「教師の役割」の重要性が再認識されました。

2 点目の論点である、ICT 活用が学びの改善に貢献しうるかに関しては、「ケースバイケース」が 3 名の共通認識でした。その背景として、生徒の年齢や特性、意欲の有無によって、ICT 学習の効果が変わることが挙げられました。ICT 活用による学びの改善は、ICT 活用をサポートする体制や学校での授業があって実現されるものであり、それらの重要性を再認識させられるセッションでした。



イベント会場での様子

人間開発部 基礎教育第一チーム インターン 平田 沙希

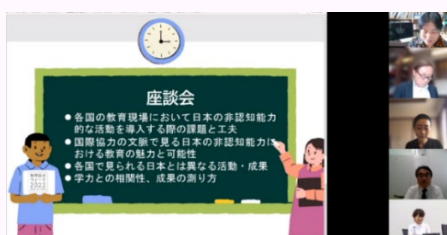


非認知能力に関する日本の教育の強み・弱みを再確認するとともに、現在展開中の全人教育・非認知能力に関する教育協力事例からその成果・課題を知ることが目的に、恒吉氏と南部氏（文京学院大学）、上野氏（NPO 法人アジア科学教育経済発展機構）、松永氏（NPO 法人国境なき子どもたち）にご登壇いただきました。

セッションでの学びについて、以下 2 点をご紹介します。

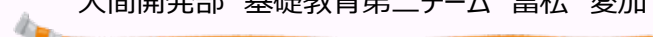
- 日本の特徴は、全人的枠組みとして、非認知能力と認知能力が学校教育の中で相互補完していること。他方、他国で展開する場合、非認知・認知を相互補完するか否かは、その国の文化・宗教を踏まえながら検討する必要がある。
- 制度化のためには、非認知能力的な活動を教員自身がやりたいと思わないと根付かない。そのため、教員が価値を見出せるような活動が重要で、様々なアクターと連携しながら実施していくことが求められる。

今回の学びを踏まえて、異なる文化的背景を持つ国への全人教育・非認知能力に関する教育協力の展開可能性について考えていきたいと思います。



座談会の様子

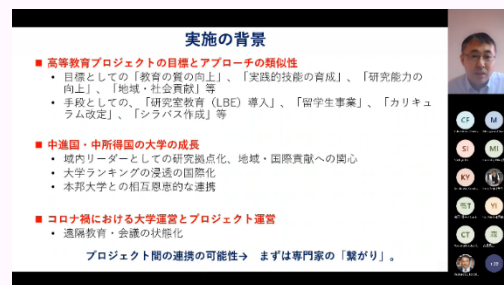
人間開発部 基礎教育第二チーム 富松 愛加





本セッションは、JICA の高等教育協力における「プロジェクト間の連携」の実践を通じた課題や効果を検討し、今後の可能性について議論することを目的とし、「マレーシア日本国際工科院強化プロジェクト」から濱田氏、ケニア「アフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AU ネットワークプロジェクト（フェーズ 2）」から十田氏、「エジプト日本科学技術大学（E-JUST）プロジェクト（フェーズ 3）」から 岡野氏にご登壇いただきました。

濱田氏、十田氏よりプロジェクト間連携の事例紹介、岡野氏より専門家同士の知的共有の場である専門家勉強会の概要や意義に関して共有がなされました。パネルディスカッションでは、E-JUST 佐々木サブチーフにモデレートいただき、連携活動の具体的取組案や可能性に関して協議しました。参加者からも多くコメント・質問が寄せられ、連携の創出、促進、維持には、カウンターパート大学も含め水平的な関係性を築き、知見を共有しあうことが有効であるとの認識が確認されました。



人間開発部 高等・技術教育チーム 江田 育慧



教育事業におけるジェンダー主流化に向けて、実務者がプロジェクト現場で実際に直面している課題や疑問、工夫等を事前アンケートで回収し、意見交換することで、実務者が“今日から実践できる”具体的なアクションを促すことを目的として開催しました。当日はモデレーターとして ICU 西村氏、パネリストとして国際航業株式会社野口氏、JICA 水野氏、JICA 岩渕氏にご登壇いただきました。

当日のセッションでの学びについて、以下 3 点をご紹介します。

- ① ジェンダーは「専門分野」ではなく、国際協力を携わる専門家がジェンダー主流化の「習慣」を身に着ける重要性。
- ② 実際的なジェンダーニーズを取り入れつつ、戦略的ジェンダーニーズを長期的に意識する重要性。
- ③ アクセス、プロセス、結果の 3 つのレベルに対してアプローチし、カウンターパートの協力を仰ぐことの重要性。

今後とも女子教育タスクでは実務者の皆様と連携しながら共にジェンダー課題について考えてまいります。



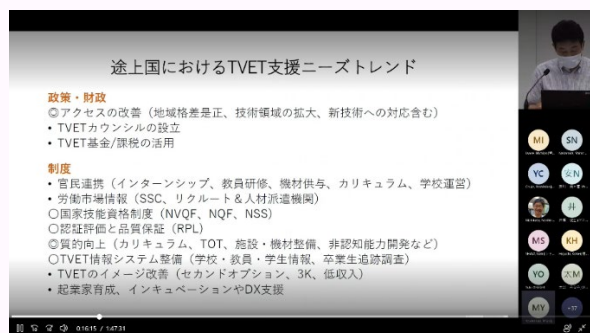
ディスカッションの様子

人間開発部 基礎教育第二チーム 泉川 みなみ



TVET 分野では、各国の産業開発戦略の下、個別の技術ニーズのみに焦点を当てるのではなく、時代の変化に柔軟に対応できるマネジメント支援や、より適切に現地産業界のニーズを反映できるよう、民間セクターとの連携を強化するとともに、途上国内人材の活用も含めた広域展開を通じて人材育成を図ることが期待されています。そうした中、本セッションでは、中原氏（JICA 専門員）、池田氏（アイシーネット株式会社）、種谷氏（セントパーツ株式会社）の 3 名のご登壇者をお招きして、産業界のニーズを踏まえた TVET の必要性和昨今の潮流の理解と JICA 案件における具体事例、民間セクターから見た TVET への期待と今後の提言について、それぞれご発表いただきました。議論を踏まえた今後への示唆・学びとしては、

- ・現地産業界のニーズを適切に反映できるよう民間セクターとの連携及びこれにもとづいた訓練を TVET 校でいかに実施していくか。
- ・要素技術の協力に限らず、時代の変化に柔軟に対応できるソフトスキルの要素を取り入れた TVET 校のマネジメントや個人の能力向上に係る支援の検討等があげられました。



今後の新しい TVET 分野支援における可能性を、関係者の皆様とともに考え、連携しながら進めていけたらと思います。

人間開発部 基礎教育第一チーム 岩瀬 倫代

2022 年 6 月 30 日に、「グローバル エデュケーション モニタリング レポート 2021/22 教育における非政府アクター」ローンチウエビナーが開催¹されました（プログラムは以下参照ください）。

ウエビナーでは、SDG4 の進捗状況ならびに今年のレポートのテーマである「教育における非政府アクター」について概要を説明するとともに、SDG4 の達成に向けた日本の ODA および NGO の役割について参加者とともに考えることを目的として、159 名の教育協力関係者が参加して知見の共有や意見交換がされました。

日本は開発途上国への支援だけでなく、日本の基礎教育における課題も含めて SDG4 における取り組みが必要とされています。この考え方をもとに、パネルディスカッションでは、政府による教育の提供に限らず、非政府アクターも協働して大きな 1 つのビジョンに向かってお互いの強みを生かすことによって、関わるべき人達が広がっている中で質の高い教育とはという問いに対して明らかになるのではないかと議論が交わされました。

本ウエビナーを通して、非政府アクターの協力なしでは SDG4 を達成できず、国境を超える教育開発を今後どう考えるかが大切という考え方も参加者で共有されました。すべてのアクターが既存の枠組みにとらわれず、連携を強めながら誰も取り残さない教育協力を目指すことが重要であることを再認識するとともに、国際教育協力を改めて考えさせられる大変貴重な時間となりました。

¹ 広島大学教育開発国際協力研究センター(CICE)、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)、UNESCO Global Education Monitoring Report, ユネスコ・アジア太平洋地域教育局と JICA の共催、(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン協力

※ユネスコ グローバルエデュケーションモニタリングレポート 2021/2022（概要）日本語版は[こちら](#)から、是非ご覧ください。

※プログラム内容

日時：2022年6月30日(木)16:00-18:00	
16:00-16:05	開会
16:05-16:10	開会挨拶 青柳 茂 ユネスコ・アジア太平洋地域教育事務局・バンコク事務所長
16:10-16:40	『GEMレポート2021/22』の概要と私たちへの問いかけ 吉田和浩 広島大学教育開発国際協力研究センター教授
16:40-17:55	パネルディスカッション「SDG4達成における非政府アクターの役割-コロナ禍時代における国際教育協力」 進行: 大安喜一 ユネスコ・アジア文化センター教育協力部長 コメンテーター: 萬理加 ユネスコ・アジア太平洋地域教育局所長室長 兼 アジア太平洋地域教育事業コーディネーター、吉田和浩 広島大学教育開発国際協力研究センター教授
	國枝信宏 JICA国際協力専門員「コミュニティと学校の協働～『みんなの学校』を事例に」
	関本保孝 元東京夜間中学教員「国の夜間中学増設方針と夜間中学映画『こんばんはⅡ』の全国上映キャラバンの取組」
	三輪開人 e-Education代表「タイトル:「e-Educationの取り組みから見てきたWith/Afterコロナ時代の国際教育協力」
	村上友紀 Global Education Monitoring Reportチーム、プロジェクト・オフィサー「2021/2 GEMレポートの中核的な発見と提言の発表」
17:55-18:00	閉会挨拶 佐久間 潤 JICA人間開発部長

人間開発部 基礎教育第一チーム 吉村 美弥

国際動向・国際会議

TICAD8 サイドイベント報告

8/25、TICAD8 サイドイベント「コミュニティ協働による教育改善とその可能性について」を、世銀、UNICEF、Pratham（国際NGO）、アフリカ教育開発連合（ADEA）との共催により、一部登壇者にはマダガスカルから参加いただき、ハイブリッドで開催しました。

人間開発部佐久間部長のご挨拶に始まり、マダガスカル及びニジェール教育省代表からの基調講演、次いで萱島研究所顧問をモデレーターに、みんなの学校専門家、世銀、UNICEF、Pratham からの登壇者によるパネルディスカッション、最後に ADEA 代表から閉会挨拶を頂きました。学習の危機に対抗する効果的な教育改善のアプローチとその成果、学びの改善におけるコミュニティの役割とその可能性について、みんなの学校の事例や各国・機関の取り組みを共有、議論しました。途中接続トラブルもありましたが、世界中から 250 名を超える方々に参加いただきました。今後も様々なアクターと連携し、ひとりでも多くの子どもの学びの改善に努めて参ります。



TICAD8 マダガスカル会場の登壇者



マダガスカルでの学校視察：Teaching at the Right Level (TaRL)と呼ばれる算数の補習活動の様子

人間開発部 基礎教育第二チーム 岩崎 理恵、長瀬 良太
16



エジプトから元高等教育大臣のハニ・ヒラール氏や元エジプト日本科学技術大学(E-JUST)学長のアフメド・エル・ゴハリ氏を含む5名の視察団が来日し、東京高専、仙台高専、都城高専と宮崎日機装を訪問、各地で学生、教員、卒業生、高専採用企業の関係者との面談を通して、エジプトへの高専システム導入に向けた検討を深めました。

視察団は、高専において社会に出ても活用できる専門的な知識を身に付けられるのはもちろんのこと、学生が社会課題に対して高専で学んだ専門的な知識を活かすという意識が非常に高いことや、社会課題への解決の方策を考えられる環境が整えられていることに感銘を受けている様子でした。

高専機構、各高専、企業関係者を含む、視察へご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。ご協力を、誠にありがとうございました！

エジプトは、産業界とイノベーションを牽引する若者が少ないことが課題です。高専システムの導入によって、社会課題に対応できる技術や考え方を身に着けた卒業生を輩出していくことを目指していきます。



最終日の JICA 本部でのラップアップ会合の様子。

高専機構、訪問先の高専の先生方にも参加いただき、次のステップに向けた議論が行われました。

人間開発部 高等・技術教育チーム 鈴木 友理



7月21日（木）、「第24回教育セクターにおける JICA・コンサルタント勉強会」が開催されました。今回は、昨年度に引き続き、オンラインでの開催となりました。JICA 職員と開発コンサルタント合せて約 50 名が参加し、JICA より対応方針説明後、「教育 DX の可能性：現実の事業を踏まえた新しい価値の創出に向けて」をテーマに事例紹介や意見交換を行いました。

【議事次第】

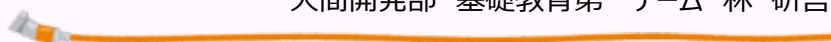
時間	内容
16:00～16:05	開会のあいさつ（JICA）
16:05～16:20	JICA 方針説明 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 今後の対応方針（グローバルアジェンダや実施中の案件など） ➢ 公示情報の共有 ➢ 教育協力ウィーク ➢ 質疑応答
16:20～16:30	教育協力ウィークについての連絡（教育協力ウィーク運営事務局）
16:30～16:50	意見交換会（グループディスカッション） 「教育DXの可能性：現地の事情を踏まえた新しい価値の創出に向けて」
16:50～17:00	意見交換会（発表）
17:00～17:10	次期幹事会社のご紹介・閉会のあいさつ（KRC）

COVID-19 感染拡大から 2 年以上が経過し、特に途上国において、「Learning Loss」が大きな課題となっており、実態把握が難しい状況にあります。

本勉強会では、TV や YouTube を活用した授業配信、オンラインでの教員研修、モニタリング業務等で ICT の活用等、すでに取り組まれている事例として共有されました。一方で、電気や電波の不安定さや学習端末の確保などの課題も多く挙げられました。

教育の DX 化はあらゆる課題を解決する可能性を持つ一方で、課題も多いというのが現状です。そのため、DX も含めたこれからの教育協力について、JICA と開発コンサルタントは互いに協力し合い、活動していきたいと思えます。

人間開発部 基礎教育第一チーム 林 研吾





マルチメディア教材「日本の科学技術・産業発展と工学教育」が完成しました！

日本の政府や大学が工学教育や研究をどのように充実させ産業界・学术界が必要とする人材を育成してきたかを国内外で紹介する目的で制作されています。

第 1 部では日本の工学系高等教育の歴史を振り返り、第 2 部では JICA 高等教育プロジェクトを事例にしなが、途上国への JICA プロジェクトを通じた日本の工学教育の伝播と活用について紹介しています。

渡邊国際協力専門員、東京工業大学高田教授、ジョモケニヤツ農工大学、アセアン工学系高等教育ネットワーク（AUN-SEED-Net）の教員のインタビューも盛り込まれ、とても見応えのある教材になっています。

皆さんにご視聴いただきたいのは勿論のこと、現地 JICA 事業や国内の教育機関などでの研修・セミナーの冒頭・合間に流したり、お知り合いにご紹介して頂いたりして頂ければ嬉しく思います。

教育ナレッジ・マネジメント・ネットワーク（KMN）

●日本語版

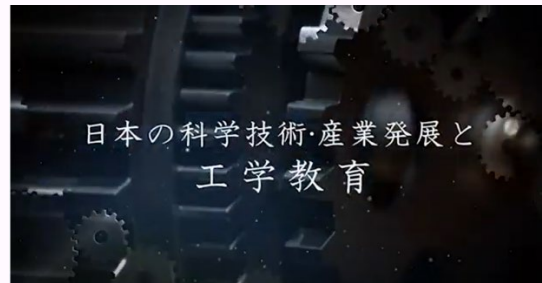
フル <https://youtu.be/6FYWu705q8M>

ダイジェスト <https://youtu.be/LCU4wEeOht8>

●英語版

フル <https://youtu.be/886-MQHIE9s>

ダイジェスト <https://youtu.be/YN9r5w9s2Wg>



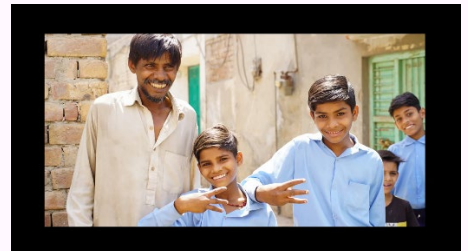
人間開発部 高等・技術教育チーム 久松 彩音



パキスタンは人口 2 億 2 千万人を擁する南アジアの大国ですが、義務教育年齢（5～16 歳）で学校に通っていない子どもが世界で 2 番目に多く、また 15 歳以上の識字率が 58%（女性 46.5%、男性 69.3%）と、世界で最も低いグループに属します。

「オルタナティブ教育推進プロジェクトフェーズ 2」（AQAL2）では、様々な理由で学校に通えない・通えなかった人たちに「いつでも、どこでも、だれでも、いくつになっても」をキーワードに、速習型学習プログラム（ALP: Accelerated Learning Program）を通じたノンフォーマル教育の機会を提供しています。ALP を修了すると普通の学校と同等の卒業資格が得られるため、進学や就職の可能性が広がります。

パンジャブ州南部の都市ムルタンでは、生活のために働く子どもが出勤前に通えるよう、南パンジャブ教育省による「モーニングスクール」が開校しました。ここに通うハスナンくん（12 歳）と彼を支える人々取材した広報動画（田中博崇専門家・作）がこの度 YouTube にアップされました。ぜひご視聴いただき、続編にもご期待ください！



【編集後記】

秋というと、読書、食欲、スポーツなどいろいろと形容されますが、教育だより第 36 号はさながら「イベントの秋」号と呼べそうです。なかでも教育協力ウィークは昨年の第 1 回を大きく上回る方が参加してくださり、幅広いテーマで議論が進められ、プラットフォームに向けて関係者が「繋がる」大きな一歩となりました。また、TICAD 8 サイドイベント、グローバルエデュケーションモニタリングレポートローンチング、コンサルタント-JICA 勉強会など、それぞれで多様な「繋がり」を感じます。教育だよりも、これを通して皆さんが「繋がる」機会になっていきたいと考えています。皆さんからも、様々な発信をぜひお知らせください。

人間開発部 基礎教育第一チーム 課長 中条 典彦

「教育ナレッジマネジメントネットワーク (KMN)」とは

JICA 教育ナレッジマネジメントネットワーク(KMN)は、JICA の教育協力事業の質向上を目標に、JICA の教育協力に関する知見や経験を一元的に蓄積し、事業に活かすとともに対外的に発信するために、人間開発部を中心に活動を行っています。具体的には、①戦略（事業戦略、ドナー連携等）、②ナレッジの創造（プロジェクト研究、インパクト評価等）、③ナレッジの共有（民間・大学とのネットワーキング）、④広報（ナレッジの蓄積・発信）等の活動を実施しています。「教育だより」では、こうした教育 KMN の取組のほか、教育協力に関わる国際的な動向や実施中の案件情報等をあわせてお伝えしていきます。教育 KMN および JICA 基礎教育、高等・技術教育、社会保障グループからの各種お知らせを希望の方は、

(1)名前、(2)ふりがな、(3)所属、(4)役職、(5)職業、(6)E メールアドレスを明記のうえ、kadaishien-ningen@jica.go.jp までお送りください。

KMN からお知らせ

教育分野におけるコロナ影響下の活動を伝える特設ページも随時更新中です！

新型コロナウイルス感染症への対応—教育分野における対応—（教育分野特設ページ）

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/corona/approach.html>

